



(吽形像)

旧中禅寺仁王門金剛力士像
東福寺蔵



(阿形像)

目次

① 展示紹介 特別展「筑波山一神と仏の御座す山」^{おわ}

② 収蔵資料紹介

常陸国久慈郡嶋村全図

摂津和泉播磨備中関東越後国御領知御高帳

昭和20年代の学校給食—歴史館所蔵の教育関係資料から—

③ トピックス

「筑波山―神と仏の御座す山―」

平成25年2月9日（土）～3月20日（水）

筑波山は、古くから信仰の山として広く知られてきました。古来より男体山頂には筑波男大神が、女体山頂には筑波女大神がそれぞれ祀られてきましたが、仏教の導入とともに神仏習合が図られ、筑波両大権現となりました。そして、従来からの山岳信仰と併せて山全体が修験霊場となり、数多くの社や堂宇が建てられました。今回の展示では、神様も仏様も両方御座した霊峰「筑波山」が、古代から近代にかけて、人々にどのように信仰されてきたのか紹介します。この特別展をきっかけとして、歴史ある「筑波山」の魅力を感じていただければ大きな喜びです。



主な展示内容について各章ごとに紹介します。

第1章 古代から中世の筑波山

筑波山は、西の男体山と東の女体山の二峰が並び立つ山です。古来より男体山頂には筑波男大神が、女体山頂には筑波女大神がそれぞれ祀られるなど、「神の御座す山」として知られてきました。その後、仏教の導入により「仏の御座す山」としても有名になりました。さらに神仏習合が図られ筑波両大権現となり、従来からの山岳信仰と併せて修験霊場としても発展してきました。ここでは、古墳時代後期に始まる筑波山信仰が、徳川の世になる前まではどのような様相を示していたのか、古代から中世まで7つの節を設けて探っていきます。



八幡塚古墳出土人物埴輪
つくば市教育委員会



『常陸国風土記』

茨城県立歴史館



慧日寺跡徳一廟出土礫石経
磐梯町磐梯山慧日寺資料館



最仙上人坐像
薬王院（桜川市椎尾）



釈迦涅槃図 茨城県指定文化財
法雲寺蔵（土浦市立博物館寄託）



鍍金装笈 国認定重要美術品
龍蔵寺蔵（白河市金屋町虚空蔵堂保管）

第2章 近世の筑波山

筑波山も江戸時代には多くの社や堂宇が建てられていました。その中心的存在が、徳川将軍家の祈願所となった知足院中禅寺です。特に、三代将軍家光による大伽藍の造営以降、筑波山は将軍家の威光とともに隆盛を極めるに至りました。一方、筑波山は坂東三十三観音二十五番札所としてや、筑波講・御六神講・大同講の拠として庶民の信仰も集めていました。ここでは、徳川将軍家から庶民に至るまで、近世の人々の筑波山への信仰がどのような様相を示していたのか、4つの節を設けて探っていきます。



吽形像
旧中禅寺仁王門金剛力士像



阿形像
東福寺（つくば市松塚）



常陸国筑波山上画図

国立公文書館



常陸国筑波山下画図

国立公文書館



万延大判

筑波山神社



十一面観音菩薩立像 **前橋市指定文化財**

無量寿寺（前橋市）

第3章 近代の筑波山

明治維新によって、日本は近代への道を歩むことになりましたが、影響は宗教面・信仰面にも及びました。その最たるものが、廃仏毀釈です。筑波山も例外ではなく、仏教関係の建物や仏像・仏具類は破却、あるいは移転され、筑波山知足院中禅寺は廃寺となりました。そして、改めて筑波山神社となり、拝殿が大御堂跡に造営されました。ここでは、筑波山神社の復興から筑波山大御堂の再建に至るまで、近代になっても変わらない霊峰筑波山に対する人々の信仰心の在り方について、3つの節を設けて探っていきます。



『勇範日記』

個人



修行大師像

筑波山大御堂

◇関連イベント情報

1 講演会 (要入館券)

- (1) 日 時 平成25年2月24日(日) 午後1時30分～3時30分
- (2) 会 場 茨城県立歴史館講堂
- (3) 講 師 西海 賢二 氏 (東京家政学院大学教授)
- (4) 演 題 「筑波山と民間信仰」

2 展示解説 (要入館券)

- (1) 日 時 ①平成25年2月10日(日) : 「筑波山ー古代編ー」
②平成25年2月17日(日) : 「筑波山ー中世編ー」
③平成25年3月2日(土) : 「筑波山ー近世徳川将軍家編ー」
④平成25年3月9日(土) : 「筑波山ー近世庶民編ー」
⑤平成25年3月16日(土) : 「筑波山ー近代編ー」

※ 各日 午前11時, 午後2時 各回約30分

- (2) 会 場 茨城県立歴史館展示室
- (3) 担 当 当館首席研究員 大関 武

3 筑波山年中行事DVD上映 (要入館券)

- (1) 内 容 「筑波山御座替祭」・「筑波山禅定・筑波講」
- (2) 日 時 期間中全日
- (3) 会 場 茨城県立歴史館エントランスホール

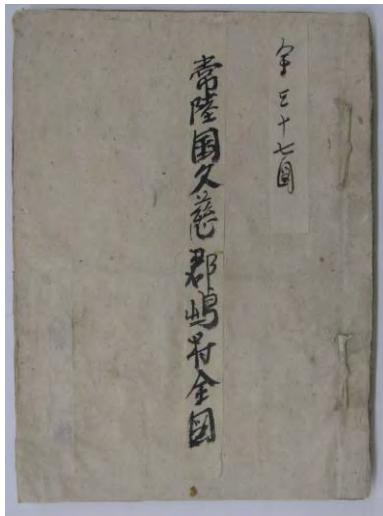
4 筑波山写真展 (要入館券)

- (1) 日 時 期間中全日
- (2) 会 場 茨城県立歴史館エントランスホール及び2階ギャラリー
- (3) 協 力 日本写真協会会員 滝原 逸郎 氏

5 筑波山がまの油売り口上 (要入館券)

- (1) 日 時 平成25年3月16日(土) 午前10時30分～11時, 午後1時30分～2時
- (2) 場 所 茨城県立歴史館講堂
- (3) 出 演 19代永井兵助 吉岡 久子 氏

資料紹介 常陸国久慈郡嶋村全図



表紙



嶋村全体図

この資料は弘化2年（1845）10月に作成された、久慈郡嶋村（常陸太田市島町）の絵図である。一舗の絵図ではなく、縦帳の和本（37帳）に嶋村全体と各小字ごとの田畑、屋敷、山林などが描かれる。

本来的には、この資料は水戸藩の藩政・農政に関する資料としてみるのであるが、今回は少し視点をかえて、この絵図に描かれた古墳について紹介したい。

常陸太田市島町は久慈川・山田川の合流地点に独立丘陵として立地しており、古墳時代には巨大な梵天山古墳（大きさが茨城県第2位の前方後円墳）が築かれた。それを中心に他に13基の円墳が分布し、さらに西側の崖面には「百穴」と称する横穴墓約30基（現在の開口基数）がうがたれる。これらの古墳・横穴墓から形成されるのが梵天山古墳群であり、島町の景観にひとつの特徴を与えている。

本絵図中の註記にも「梵天山」古墳、「高山」塚古墳、「富士社」（富士山塚）古墳、そして「百穴」など横穴墓も含む古墳の名称の記載がある。いずれも、それらの名称が今日にも伝わる。こうした点から、私たちが、古墳に～塚古墳、～山古墳と名称をつけてよんでいること、その起源が少なくとも近世末期にまで遡れる可能性があるといえよう。

それにしても、近世の人びとが、こうした古墳に対して、自然地形の山ではなく、人工的な構造物としての塚（墓）とみなしていた点は興味深い。たしかに、弘化よりも遡った時代に、たとえば徳川光圀が、上侍塚古墳・下侍塚古墳（栃木県大田原市）を発掘したような事例はあるが、大半の人びとは専門に歴史学を学んだわけではなく、ましてや西洋を起源とする近代的な考古学など、その存在さえ知るよしもない。おそらく、地域の人びとが、先祖より「この塚（山）は～墓だ。大切にせよ」という教えが代々伝わってきたと思われる。その出発点を古墳時代にまで遡らせられるかは別としても、数百年の間、村の記憶となり、それゆえ村における「聖地」として大切にされてきたのであろう。

近世村絵図は近世史研究の第一級の資料であるが、少し見方を変えれば、古代史や地域伝承についても、意外な答えを秘めているのである。



描かれた梵天山古墳



描かれた富士山塚古墳（左）と高山塚古墳（右）

「摂津和泉播磨備中関東越後国御領知御高帳」

(一橋徳川家文書 E1-166)

この史料は、明治3年(1870)、一橋徳川家が新政府に領知を引き渡す際に作成されたとみられる文書です。

【一橋徳川家】

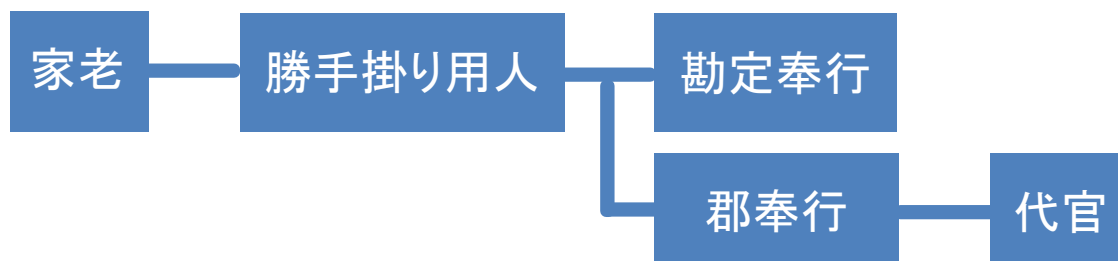
一橋徳川家は、8代将軍吉宗の4男宗尹^{むねただ}を祖とする家です。田安德川家(吉宗の次男宗武が祖)・清水徳川家(9代将軍家重の次男重好が祖)とともに「御三卿」の1つに数えられます。「御三卿」は、将軍家の庶子で、独立した大名とされず、将軍家内の部屋住すなわち将軍の身内として設けられました。

【一橋領】

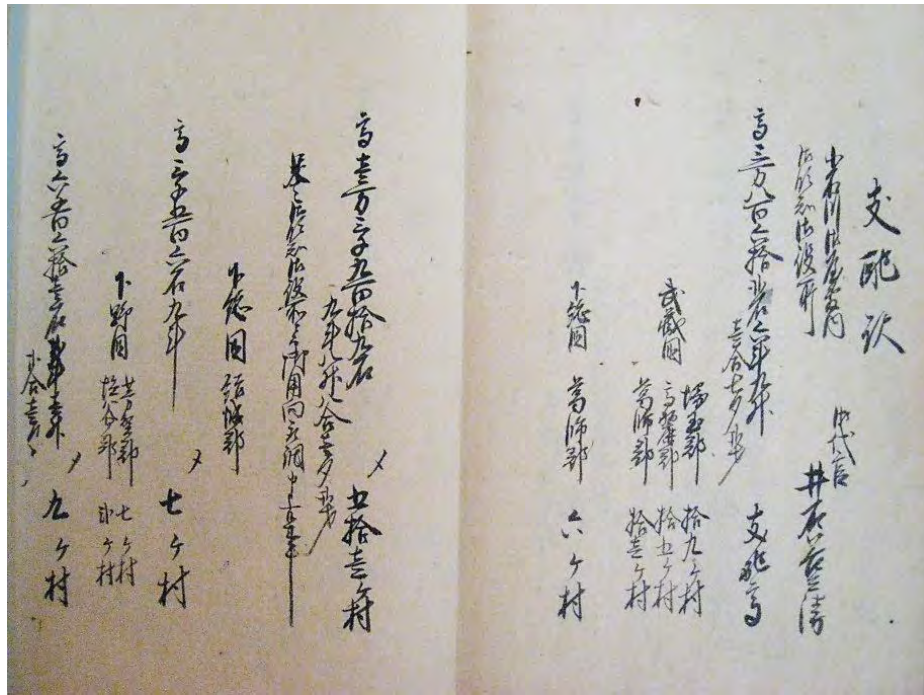
一橋領は、延享3年(1746)に播磨・和泉・甲斐・武蔵・下総・下野国に計10万石を分与されたのが始まりです。その後、寛政6年(1794)に甲斐国を遠江国に移し、同9年に武蔵国葛飾郡2か村を取り替え、文政6年(1823)に遠江国の内1万石を摂津国の内に引き替え、同10年に遠江・武蔵・下野国を摂津・備中・越後国の中に引き替えるという領知替えが行われました。一橋領は、最終的には史料の表紙にあるように摂津・和泉・播磨・備中・関東(武蔵・下総・下野)・越後国に固定され、幕末まで続きました。

【一橋領の支配組織】

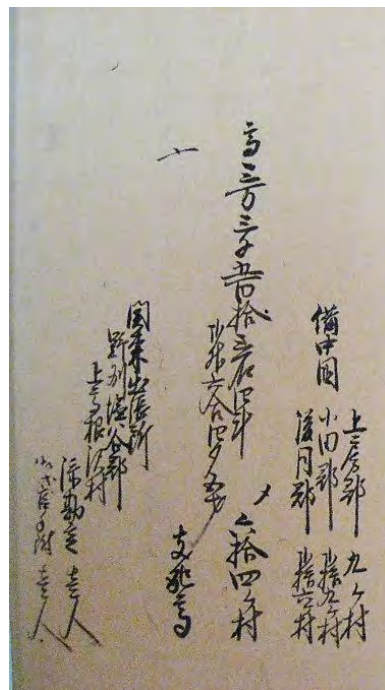
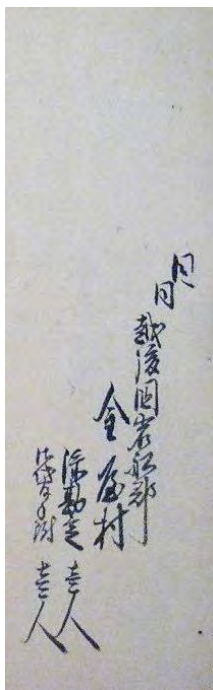
一橋領の支配組織は、家老の指揮の下、勝手掛り用人が統括し、その下には勘定奉行を長とする勘定所と、郡奉行を長とする領知方役所とがありました。そして、郡奉行の下に代官が置かれました。



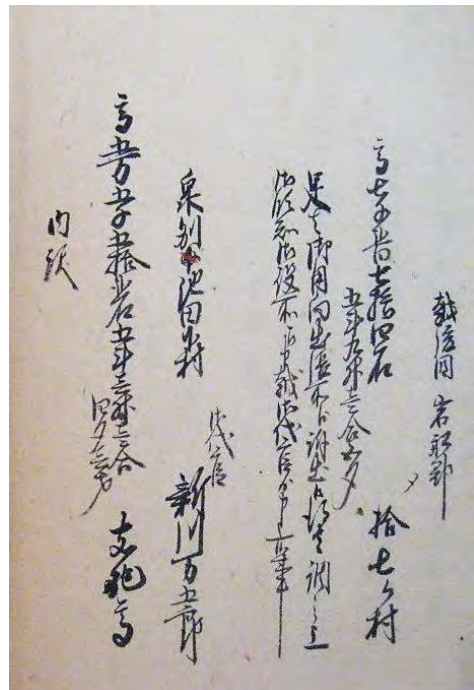
ここでは、史料中の「支配記」に注目し、一橋領の関東支配がどのように行われていたのか、その一端を紹介してみたいと思います。



「支配訳」冒頭の部分を見ると、江戸小石川邸内に「御領知御役所」があり、1名の代官が担当していたことが分かります。支配の方法は2通りで、武蔵国3郡（埼玉郡・高麗郡・葛飾郡）と下総国葛飾郡の計51か村は直接的に、下総国結城郡，下野国2郡（芳賀郡・塩谷郡），越後国岩船郡の計17か村は「出張所」を介して間接的に支配していたことが見てとれます。



(中略)



さらに、「関東出張所」は下野国上高根沢村（栃木県塩谷郡高根沢町）と越後国岩船郡金屋村（新潟県村上市金屋）の2か所に置かれ、いずれも「添勘定」，「御代官手附」を各1名ずつ現地に派遣し，実務を担当させていた様子がうかがえます。

昭和 20 年代の学校給食

—歴史館所蔵の教育関係資料から—

当館は、平成 5 年度に水戸市内の小学校から寄贈を受けた資料を所蔵しています。

また、平成 7 年度からは、県内の小学校が所蔵する教育関係資料をマイクロフィルムに撮影して収集し、写真版による公開を進めています。これまでに収集を行った学校は 345 校を数え、収集した資料は 2,219 点に上ります。

今回は、それらの資料からわかる、昭和 20 年代の学校給食について紹介します。



戦後間もない頃の給食といえば、脱脂粉乳のミルクを思い浮かべる方も多いと思います。那珂郡小瀬村小瀬第一小学校（現在の常陸大宮市立緒川小学校）の「給食関係公文書」（教育資料 624）には、脱脂（粉）乳を用いた参考用のレシピが綴られています。

（ここでは歴史的仮名づかいを改めて、句読点を補うなどによる、わかりやすく直しました。以下の資料についても同じです。）

◎脱脂乳入り味噌汁

青菜・馬鈴薯・味噌で味噌汁を作り、最後に水溶きした脱脂乳を加える。

◎煮込み

大根・人参・牛蒡を乱切りにして煮干しを加え、かぶる位の水を加えて煮る。

野菜が柔らかくなった時、塩で調味し、濃く水溶きした脱脂乳を加えてしばらく煮る。

◎脱脂乳のスープと鮭缶詰の付け合せ

馬鈴薯・人参を 1cm 角に切り、1 人 1 合くらいの水で煮る。

野菜の柔らかくなった時、裏ごしにかけ、塩で調味し、最後に濃く水溶きした脱脂乳を加える。

鮭缶詰は付け合わせる。

◎野菜のクリームかけ

脱脂乳・小麦粉・油でクリームを作る。

里芋・煮干は塩・醤油で薄味をつける。

ホーレン草はお浸しにする。

皿に里芋とホーレン草を盛り、クリームを添える。

同校は、昭和 22 年 11 月 26 日に 1,000 ポンド（約 453.6kg）の脱脂粉乳を 1 万 1 千円で購入し、翌日から給食を開始しました。当時の給食費は 1 か月 20 円です。栄養状態を改善するため、比較的入手しやすかった脱脂粉乳や鮭の缶詰を用いたメニューが考案されたのだと考えられます。



次に、常陸太田市立西小沢小学校の「学校給食沿革誌」（教育資料 292）を紹介します。この綴りは、昭和 37 年 10 月から編修されたものですが、その中に「本校給食の経過」という資料が含まれていました。

第二次世界大戦の敗戦により、我が国もいまだかつてない深刻な種々の問題をかもしだしている。

ことに食糧難による国民の生活は惨めさを増し、国民の体位、否、学童の体位の劣りは甚だしく、教育上にも甚大なる影響を及ぼした。

いかなる対策を立てるにしても、物資がなければ解決の方法がたたない。

幸いにも米国の放出物資による給食の開始が叫ばれて来た。

しかしながら金のかかる事であるので、よいとは知りつつも実施にふみきるのは容易の事でなかった。

当時、綿引校長はこの打開策として資金を得る道を考えた。まず、

① 昭和 22 年 11 月 19 日

施設を作らねばならないためイナゴによる資金獲得を考え、全児童を動員し、イナゴ取りを行った。10 俵 30 貫 500 匁（≒約 115kg）を売却することが出来た。

その金額は 15,300 円となった。

② 昭和 23 年 1 月 13 日

児童 1 人について、藁（わら）を 5 把ずつ寄付してもらい、634 把集まった。

それらの売却による金額は 2,200 円となり、やっと資金も出来たので給食用具を購入する。

③ 昭和 23 年 1 月 19 日

野菜を持ちより、薪（まき）も持参させ、炊事場を利用して、味噌汁をささやかながら開始した。

◎学校給食開始

（以下略）

敗戦からわずか 2 年という困難な状況の中で、知恵をしばって給食を開始した校長先生の指導力には頭が下がります。子どもたちを動員してイナゴ取りを行い、各家庭からワラを集めて資金を作り、野菜と薪を持ち寄って、給食をスタートさせたのです。



最後に、水戸市立三の丸小学校から寄贈を受けた資料について紹介します。冒頭で述べたとおり、平成 5 年（1993）9 月に歴史館が受け入れたもので、給食関係資料が 47 点含まれます。概要は次の表のとおりです。

表 三の丸小学校給食関係資料概要

資 料 内 容	年 次	点 数
学校給食関係文書綴	1958(S33)～1967(S42)	12
給食日誌	1952(S27)～1976(S51)	10
学校給食栄養管理講習会講義要項	1955(S30)～1959(S34)	5
日々物資使用票綴	1960(S35)～1962(S37)	3
三の丸小学校給食室改築関係綴	1966(S41)～1967(S42)	2
給食検収簿	1974(S49)～1975(S50)	2
検食簿	1974(S49)～1975(S50)	2
その他	1949(S24)～1968(S43)	11

この中から、昭和 27 年度「給食日誌」（三の丸小学校寄贈資料 1265）の記事の一部を紹介します。給食作りに携わった方々の、子どもたちへの愛情が伝わってきます。その日の献立名も記しますので、当時の給食を考える手立てにいただければ幸いです。

昭和 27 年 5 月 1 日 木曜 天気 晴 献立名 パン ミルク うずら豆含め煮 たくあん

給 食 人 員	1,557 名	一 人 當 り 平
記 事	蛋白質、カロリーは充分であるが、^{脂肪}脂質が少い。 今日使用したたくあんは味が非常に悪い。 給食人員 1,557 人の肉給食費納入人員 1,450 人として 一人當り金額計算	明日の準備

昭和 27 年 7 月 2 日 水曜 天気 曇 献立名 パン ミルク 野菜 ソテー

給 食 人 員	1,579 名	一 人 當 り 平
記 事	今日より野菜裁切機使用。キャベツ、玉葱は非常に切れ 味がよいかお芋の乱切がまったく出来ず。もっと研究して 見る必要がある。今日まではおつゆみには良いが、煮付の 味はお芋の味とよく似ていて、よく似ている。	明日の準備

- 5月2日 (パン、ミルク、カレー)
豚肉のかわりに鯨を使用した。
始めに油で炒め、カレー粉をふりかけておいた。
臭みはほとんどなかった。
- 6月12日 (パン、ミルク、まぐろと野菜の煮付)
今日の献立は、児童誰も喜んだ。
お魚も一人分だけ煮付けるより、この様にしたほうが野菜ともおいしくいただけると思う。
- 9月15日 (パン、ミルク、味噌汁、ジャム)
煮干は裁切機で細かくしてしまうため、今迄の様にそっくり残さない。
ほとんどわからないで、お汁と一緒に飲んでしまう、又お汁の味も良い。
無駄にならずに本当に良い事だと思う。
- 9月29日 (パン、ミルク、味噌汁)
さんまが豊富に出ているので、子供達は家庭でも焼き魚、煮魚にして戴いていると思う。
今日は味噌汁にしたが、だしが出ておいしく戴けた。



当館では、旧水海道小学校の展示を、2月9日からリニューアルしました。

これまで紹介したような懐かしい給食を、レプリカで復元したコーナーを設けました。昭和20年代から60年代までの給食を10年単位で紹介しています。小・中学生の皆さんから、お父さん・お母さん、さらにはお祖父さん・お祖母さんまで楽しめると思います。

旧水海道小学校に足を運んで、ぜひご覧ください。



給食日誌（水戸市立三の丸小学校）



給食レプリカ（イメージ）

行政資料課 富田 任

トピックス

〈庭園内水車小屋が稼働し始めました〉

那珂郡山方町（現常陸大宮市）諸沢から 1973（昭和 48）年に移築された水車小屋修理が終了し、水車が再び動き出しました。内部のカラクリも見られます。ご来館の際には是非ご覧になって下さい。



〈今年度の貴重な発見！〉

特別展示を行いました。

平成 24 年 9 月 20 日(木)～10 月 31 日(水)

明治・大正期に活躍した本県ゆかりの文人、山村暮鳥（1884～1924）の詩集『雲』は、暮鳥が死去した翌年、大正 14（1925）年に初版が刊行されましたが、その前年に暮鳥の葬儀（大正 13 年 12 月 11 日）のために、特別に用意された「仮製本」2 冊があったことが知られていました。

そのうち、1 冊は江林寺の暮鳥の墓に納められたことがわかっており、もう 1 冊が行方不明となっていました。今年度、当館の所蔵史料がそれであることが確認されました。

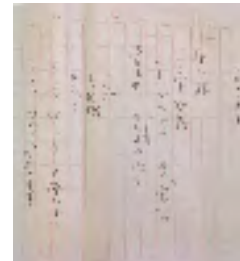
この「仮製本」には、暮鳥の絶筆となる校正指示書きが貼付されているなど非常に貴重な発見となりました。



展示の様子



表紙



裏表紙見返しに暮鳥の絶筆が！

〈平成 24 年度後半のイベントから〉

塩づくり実演と鹿角ペンダントづくり

平成 24 年 10 月 20 日(土)

秋の特別展「霞ヶ浦と太平洋のめぐみー塩づくりー」の関連イベントを開催しました。

古代の塩づくりを再現するイベントが行われ、350 名を超える見学者が塩たきの鍋の周りに集まりました。茨城県の霞ヶ浦は日本の塩づくり発祥の地とされており、縄文時代当時は、海水を「製塩土器」で煮詰める方法で塩が取り出されました。

この再現実験のために、担当の川又清明首席研究員は、汲んできた海水を 3 か月以上天日にさらし濃い塩水を準備。午前 10 時ごろ塩水の入った大鍋を火にかけ、実験がスタート。煮詰まるのを待つ時間、事前申込いただいた方々は鹿角を削って古代のアクセサリ作りを体

験しました。

2時間を過ぎてようやく塩の結晶が見え始め、およそ3時間かかって白い塩が取り出され、その意外な白さに驚く声が聞かれました。また、お土産に出来上がったばかりの塩を手にして、「夕飯は塩むすびとふかしいもにします。」という嬉しいコメントも頂きました。



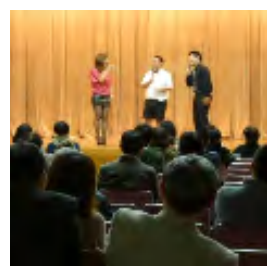
いちょうまつり関連イベント

「フレッシュお笑いライブ」赤プル&すいたんすいこう

平成 24 年 11 月 17 日(土)

茨城県出身のお笑い芸人2組、赤プルとすいたんすいこうをお迎えしました。

それぞれのネタやフリートークの他、歴史館トリビアクイズでは、全問正解者にはお三方のサイン色紙がもらえるチャンスも。お客様と芸人が一体となって笑いに包まれた1日となりました。



劇団水戸黄門 公演「仇討ちに命をかけた母と子」

平成 24 年 11 月 18 日(日)

皆に愛される茨城の偉人・水戸黄門が舞台に帰ってきた！劇団を率いるは、TV「水戸黄門」シリーズで長年監督を務めた居川靖彦氏。演目は劇団第3作目で、今回の公演が初お披露目でした。



大好評につき、2・3月の公演決定！お楽しみに！

演目「悪女の目に涙」

常陸の国を荒らし回る女盗賊一味をこらしめる旅に出た、老公一行。その途中、10年前に別れた母を探す旅を続ける子供と出会う。母子は再会できるのか？盗賊一味、老公の天誅やいかに・・・。

2月23日(土)・3月10日(日)・3月17日(日) 各日 11:30~12:15 / 14:00~14:45

歴史館コンサート

平成 24 年 11 月 30 日(金)

今年度第3回目は、ピアノと声楽のコンサート。スタインウェイ&サンズ社にて1865（慶応元）年に製造されたピアノからのいにしへの音色と美しい歌声が調和し、豊かなひとときを過ごしました。



来年度は、邦楽器とピアノのコラボレーションも予定しております。

歴史教室「水戸藩における尊王攘夷運動の特質―その形成過程をめぐって―」 1月19日(土)

担当は、由波俊幸主任研究員。なんと定員200名を超えるお客様にお越し頂きました。参加されたお客様から「大変興味深かった。」「分かりやすかった。」等のお声を頂きました。



来年度、第2弾を予定しております！どうぞお楽しみに！

〈歴史館ボランティア活動記録〉



十二単を着せたり・・・



一緒に勾玉を作ったり・・・



甲冑を着せたり・・・

その他いろいろな活動をしています。

現在、ボランティア募集中！ご興味のある方は、教育普及課までご連絡下さい。

お知らせ

秋の特別展開催期間中の喫茶コーナー好評につき、春の特別展期間中もオープンしています。

2月9日(土)～3月20日(水) 土曜・日曜・祝日 オープン！

挽きたてコーヒーなどをお楽しみ頂ける喫茶コーナー。

皆様のおいでを心よりお待ちしております。



掲載内容についてのお問い合わせは、

茨城県立歴史館 教育普及課 電話 029-225-4425

または、ホームページの「お問い合わせ」からメールをお送りください。